

力の入ったプレーを繰り広げる豊中、池田両高校の選手たち(豊中市で)



アメフト部 高め合い70年

豊中高 記念戦 OBから見守る 池田高

高校アメリカンフットボール部の草分けである府立豊中高校(豊中市)と府立池田高校(池田市)のアメリカンフットボール部が今年、共に創部70周年を迎え、23日、豊中市内で記念の定期戦が行われた。両校のOBからも多数集まり、今後も高校アメフト界の古豪として活躍していくことを誓い合った。

両校のアメフト部の歴史は太平洋戦争の終戦翌年の1946年に始まった。当時は旧制中学だった両校を、進駐した米軍の将校らが訪問し、アメフトによく似たタッチフットボールを指導したのが始まりだった。両校は同年12月28日に初めて対戦し、それ以来、定期戦を続けてきた。

この日、豊中市内のグラウンドで行われた記念試合は1、2年生で構成する両チームがぶつかり、結果は、攻撃力に勝る豊中が27対0の大差で勝利を収めた。

スタンドでは日本アメリカンフットボール協会理事長を務めた古川明さん(85)(旧制池田中OB)らが観戦。古川さんは関西学院大に進み、大学日本一も経験。卒業後はアメフトの普及に尽力してきた。「池田、豊中の両校は互いの場所も近く、切磋琢磨できる環境だった。共に各大学に良い選

手を送り込み、アメフトの発展を支えてきた」とこれまでの歩みを振り返った。

豊中OBの山本泰勇さん(80)は「昔に比べ、プレーのレベルも格段に上がっていますね」と目を細めていた。

試合後には小学生を招いた体験教室が開かれ、高校生たちがボールの投げ方や受け止め方などを指導した。

進学校でも知られる豊中高は放課後の練習は1時間半に限定し、効率のよい練習を心がけているという。同高2年で主将の阪田幸祐

さん(17)は「豊中の伝統である、自分たちで考えてプレーするスタイルをしっかりと受け継いでいきたい」と力を込めた。

この日は敗れたが池田高

も府内を代表する実力校だ。同高2年で主将の辻泰志さん(17)は「これからも両校で伝統のライバル同士として競い合っていきたい」と話した。